

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2016年5月号(第17号)



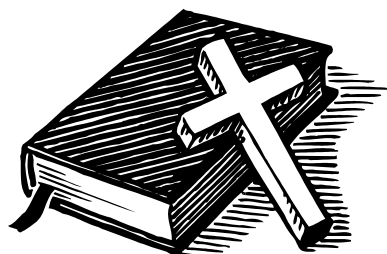
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。

【詩篇 121 篇 1~2 節】

今月は、聖書の不思議さについて書きたいと思います。クリスチャンは聖書を読む時、神様が語りかけて下さると期待して読みます。と言いましても、難しく理解しにくい箇所もあり、時に睡魔が襲ってくることも事実です。しかし、もちろん大変なだけではなく恵みもあります。以下では、私の小さな体験をお分かちします。

私は大学卒業後に一般企業に就職しました。入学や卒業といった「変化」が大嫌いな私は「入社」という学業とは全く違う世界に足を踏み入れることに強い抵抗を覚えていました。大学の何年生からなのか、それとも高校生の頃からか覚えていませんが、毎朝聖書を読む習慣がありましたので、入

社式の日の朝もいつもの通りに聖書を開きました。当時『アパ・ルーム』という小冊子を使っており、その冊子に記されている聖書箇所を開いて読んでいました。2006年4月3日の『アパ・ルーム』で開くように書かれていた箇所が「今月の聖書のことば」に記されている詩篇 121 篇でした。入社や社会人になることに対して漠然とした不安を抱えていた私が聖書を開いて詩篇 121 篇を読んだ時、涙が出てきました。そこには次のように記されていました。

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。」

誤解のないように申し上げますと、別に神

が「山」に住んでいるわけではありません。これは詩的な表現です。この詩人も、何らかの困難にぶつかっていたのかと想像します。助けが必要な状況だったのでしょうか。

「私の助けは、どこから来るのだろうか」と語った詩人は一つの確信に導かれます。

「私の助けは、天地を造られた主から来る。」

この詩が私のその時の状況にピッタリと合いました。ピッタリなどという言葉では言えないような、ミラクルフィットでした。

しかもこの 121 篇は、この後も神が徹底して守り続けてくださる御方であることが歌われているのです。この詩の最後は次のように閉じられています。「主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。」なんと永遠に守り続けてくださる御方だとあるのです。この詩を読んだ私は涙を流しながら神に祈り、感謝しました。

いつもの通り、いや冊子に言われるがまま開いた聖書の箇所です。それにも関わらず私の状況にピッタリと合い、私は大きな励

ましを頂きました。聖書の不思議さがここにあります。正直に申し上げて、私は詩篇 121 篇を読んだことはあったでしょうが、全く記憶にない箇所でした。しかし、それがまるで私のためにあった箇所かのように響いてくる。こんな体験をしたら、聖書のとりこになってしまいます。そして、これが神に出会う体験なのだと思います。神は今も生きておられ、私を見ていて下さり、導いて下さっている。そして、その時に必要な助けと励ましを聖書の言葉によって下さる。誰もが同じように体験することはなにかもしれませんが、聖書を少しずつ読んで行く時、不思議な神との出会いがあります。聖書を読むって楽しいことです。

◆コラム

ご存知のように、熊本地震が発生しました。今なお余震も頻発しており、予断を許さない状況が続いています。千葉と熊本ですと車で移動することも困難なため、どのようにしていくことが良いのか考えさせられます。また、息の長い支援になるでしょうから、教会としても祈りつつ対応を検討していく必要があります。更に、東日本大震災の被災者の方も心に留めていくことも大切なことですし、背伸びをしない、身の丈にあった対応をしていきたいとも思います。なによりもまずは祈ることから始めます。

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 10:30～12:00

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00

教会学校 9:00～10:00

19:30～21:00

○毎月第 2 火曜日：ユニケの会 10:30～12:00 (子育てなどを行っている方のための集い)

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。